

家庭礼拝ガイド 365 日－3月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
3/1	ヤコブ 1:12～18	ヤコブ 1:12	試練を通過せよ
3/2	ヤコブ 1:22	ヤコブ 1:22	みことばを実行する人になりなさい
3/3	ヤコブ 2:1～13	ヤコブ 2:1	人を差別してはならない
3/4	ヤコブ 2:14～26	ヤコブ 2:22	信仰と行い
3/5	ヤコブ 2:17	ヤコブ 2:17	行いのない信仰
3/6	ヤコブ 3:1～12	ヤコブ 3:11	苦い言葉、甘いことば
3/7	ヤコブ 3:13～18	ヤコブ 3:17	上から出る知恵
3/8	ヤコブ 4:1～10	ヤコブ 4:4	世の友とならない
3/9	ヤコブ 4:11～12	ヤコブ 4:11	悪口を言わない
3/10	ヤコブ 4:13～17	ヤコブ 4:13～14	私の計画、神の計画
3/11	ヤコブ 5:1～6	ヤコブ 5:1	正しい価値観
3/12	ヤコブ 5:7～11	ヤコブ 5:8	主が来られるのを待つ
3/13	ヤコブ 5:12	ヤコブ 5:12	はいをはい、いいえをいいえ
3/14	ヤコブ 5:16	ヤコブ 5:16	義人の祈りは大きな力
3/15	ヤコブ 5:19～20	ヤコブ 5:20	回復の道
3/16	I ペテロ 1:23	I ペテロ 1:23	朽ちない種から生まれた私たち
3/17	I ペテロ 2:2	I ペテロ 2:2	純粋な御言葉の乳
3/18	I ペテロ 2:9	I ペテロ 2:9	神の所有とされた民
3/19	I ペテロ 2:25	I ペテロ 2:25	羊のように
3/20	I ペテロ 3:15	I ペテロ 3:15	いつでも弁明できる準備を
3/21	I ペテロ 5:7	I ペテロ 5:7	思い煩いを神にゆだねる
3/22	II ペテロ 3:10	II ペテロ 3:10	主の日は盗人のように来る
3/23	I ヨハネ 1:9	I ヨハネ 1:9	罪を赦し、悪からきよめてくださる主
3/24	I ヨハネ 3:9	I ヨハネ 3:9	神から生まれた者は
3/25	I ヨハネ 4:9	I ヨハネ 4:9	神の愛が私たちに示された
3/26	I ヨハネ 4:7～21	I ヨハネ 4:11	愛し合うこと
3/27	ユダ 20, 21	ユダ 20, 21	主のあわれみを待ち望む
3/28	黙示録 2:4	黙示録 2:4	初めの愛から
3/29	黙示録 3:20	黙示録 3:20	戸の外に立ってたたかれる主
3/30	黙示録 20:11～21:7	黙示録 21:4	最後の審判
3/31	黙示録 22:13	黙示録 22:13	アルファであり、オメガである主

3月1日

テーマ：試練しれんを通過つうかせよ

聖書箇所：ヤコブの手紙てがみ1章しょう12～18節せつ

◆今日のみことば

試練しれんに耐える人は幸さいわいです。耐え抜たぬいて良よしと認みとめられた人は、神かみを愛する者ものに約やく束そくされた、いのちの冠かんむりを受けるからです。

ヤコブの手紙1章12節

◆メッセージ

今日のみことばは、わたしたちが毎日の生活まいにちで出会う色々な難むずかしい問題もんだいや苦くるしく、つらいことなどを通過つうか（通り抜け）したとき・・・もちろん自分じぶんの力ちからで通過つうか（通り抜け）したのではなく、神かみさまのお助たすけと知恵ちえによって通過つうか（通り抜け）したとき・・・神かみさまが素晴らしいご褒美ほうびを用意よういしてくださると語かたっています。

神かみさまがわたしたちに約やく束そくしてくださっている「いのちの冠かんむり」は、わたしたちが想像そうぞうするものよりもはるかに勝まさって良いものだからです。イエスさまがどんなに素晴すばらしいお方かたかであるか知しれば知しるほど、神かみさまのみことばである聖書せいしょをもっと読よむようになり、あなたへの素晴すばらしい神かみさまの愛あいがわかるようになります。そして神かみさまが約やく束そくしておられるものを欲ほしいと思おもうようになります。



わたしたちは、難むずかしい問題もんだい、難むずかしい物事ものごとに出会であうことがあります。

聖書せいしょではそれを「試練しれん（テスト）」と呼よんでいます。試練しれんの時、大切たいせつなのは、神かみさまに頼たすることです。神かみさまは、あなたが難むずかしい問題もんだいや物事ものごとにぶつかるとき、あなたを助たすけることができますから。真剣しんけんになって神かみさまの助たすけをお願いねがいしましょう。神かみさまがしてくださることを待ちましょう。

生きるためのテストは決してやさしくはありません。しかし、聖書せいしょを書かれた神かみさまはその答こたえを全部ぜんぶ持もつておられます。①あなたはこれまで難むずかしい「試練しれん」にあいましたか？その時とき、神かみさまの助たすけや知恵ちえをお願いねがいせずに、自分じぶんの力ちからで「試練しれん」を通とおり抜ぬけようとしたか？その結果けっかはどうでしたか？ ②「試練しれん」に「耐え抜たぬく」とは、どういう意味いみですか？ ③神かみさまはどうしてあなたに「試練しれん」をお与あたえになるのでしょうか？ また、どうして「試練しれんに耐え抜たぬく」ように、と言いわれるのでしょうか？ ④神かみさまがわたしたちに差さし出だしておられるご褒美ほうびをもっとわかるため、またそのご褒美ほうびを欲ほしいと思おもうようになるためには、どうしたらよいでしょうでしょうか？ ①～④の問といに、答こたえてみてください。

最後に、今日のみことばのとおり、あなたが試練しれんにあう時とき、神かみさまが守まもってくださいと祈いのりましょう。

◆お祈り

「神かみさま、神かみさまがわたしに約やく束そくしてくださっているご褒美ほうび（いのちの冠かんむり）に、わたしの目を止めめることができるように助たすけてください。」

（支援教師 鈴木教子）

3月2日

テーマ：「みことばを^{じっごう}実行する人^{ひと}になりなさい」

聖書箇所：ヤコブの手紙^{てがみ} 2章^{しょう} 11節^{せつ}

◆今日のみことば

また、みことばを^{じっごう}実行する人^{ひと}になりなさい。自分を^{じぶん}欺^{あざむ}いて、ただ聞くだけの^き者^{もの}であってはいけません。
ヤコブの手紙^{てがみ} 2章^{しょう} 11節^{せつ}

◆メッセージ

今日の箇所には、「みことばを^{じっごう}実行する人^{ひと}になりなさい」と書^かかれています。私たちには、聖書^{せいしょ}の中^{なか}に書^かかれているイエスさまの言葉^{ことば}を^{じっさい}実際^{じっさい}に行^いうことが望^{のぞ}まれているのです。でも、しようと思^{おも}っているのに、できないでいることはありませんか。

イエスさまは「種^{たね}蒔^まきのたとえ」の中^{なか}で、このように言^いっています。「また岩地^{いわち}に蒔^まかれるとは、みことばを聞^きくと、すぐ^{よろこ}に喜^うんで受け入^いれる人^{ひと}のことです。しかし、自分^{じぶん}のう^{うち}に根^ねがないため、しばらくの間^{あいだ}そうするだけで、みことばのために困^{こん}難^{なん}や迫^{はく}害^{がい}が起^おこると、すぐにつま^{つま}ずいてしまいます。」(マタイ13:20、21)ですから、みことばを

実行^{じっごう}するためには、心^{こころ}に蒔^まかれたみことばの種^{たね}がしっか^しかりと根^ねを張^はることが大切^{たいせつ}なのです。みことばの種^{たね}が根^ねを張^はるためには、みことばをしっか^しかり聞^きいて心^{こころ}に蓄^{たくわ}え、みことばが教^{おし}えるように信^{しん}じて従^{したが}うことです。

みことばに関^{かん}して、聖書^{せいしょ}には「生^うまれたばかりの乳飲^{ちの}み子^ごのように、純^{じゆん}粋^{すい}な、みことばの乳^{ちち}を慕^{した}い求^{もと}めなさい。それによ^よって成^{せい}長^{ちやう}し、救^{すく}いを得^えるためです。」(Iペテロ2:2)とも書^かかれています。乳飲^{ちの}み子^ご (赤^{あか}ちゃん) はただ栄^{えい}養^{やう}としての乳^{ちち}を飲^のむだけでなく、お母^{かあ}さんからの愛^{あい}もたくさんい^いただいています。私たちもみことばをたくさん聞^きくことによ^よって、神^{かみ}さまがど^どれほど私^わたちの

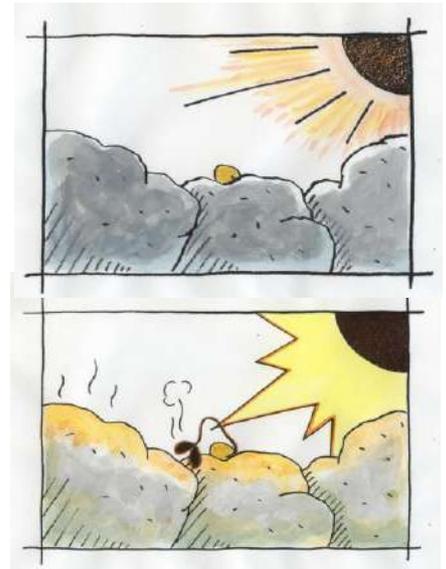
こと^{こと}を愛^{あい}してくださっているのか、どうしてこのよ^ようなこ^{こと}を命^{めい}じられるのかを^し知^しることが^で可^か能^にで^でしょう。その喜^{よろこ}びや感^{かん}謝^{しゃ}をも^もって神^{かみ}さまのみことばを^{じっごう}実行^{じっごう}してい^いくもの^{もの}とな^なりたいです^すね。

神^{かみ}さまは私^わたちが^か可^か能^にできない^{できない}こ^{こと}を「しなさい」とお^かつ^かしゃ^つる方^{かた}では^{では}あ^あり^あり^あませ^せん。実行^{じっごう}する^{する}た^ため^めの力^{ちから}や助^{たす}けも^も与^{あた}えて^てくだ^{くだ}さい^{さい}ます。だから、さあ、後^{あと}はみことばの通^{とお}りに^にや^やっ^つて^てみ^みる^るだ^だけ。聞^きいて^お終^おわり^りでは^{では}なく、^{したが}従^{したが}い^いま^まし^しょう。

◆お祈り

「神^{かみ}さま。あなたのみことばを^きき、あなた^{あい}の愛^{めぐ}や恵^しみ^しを知^しることが^で可^か能^に出^で来^きます^{よう}に。そしてその愛^{あい}に^あこ^こた^たえる^る者^{もの}としてみことばにしっか^しかりと従^{したが}って^いくこ^ことが^で可^か能^に出^で来^きる^{よう}に助^{たす}けて^くだ^ださい。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)



3月3日 テーマ：人を差別してはならない

聖書箇所：ヤコブの手紙2章 1～13節

◆今日のみことば

私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。
ヤコブの手紙2章 1節

◆メッセージ

私たちは、見ただけでお友だちを判断してしまうことはないでしょうか？

このヤコブの手紙が書かれた時代の教会で、ある出来事(2:2-4)が起きました。

金の指輪をはめりっぱな服装をした人と、みすぼらしい服装をした貧しい人が教会にやってきました。すると教会の人たちがりっぱな服装をした人に目を留めて、「あなたは、こちらの良い席におすわりなさい」と言いました。そして、貧しい人には、こう言いました。「あなたは、そこで立っていないさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい」と。人を見ただけで判断し、差別してしまう出来事が起きたのです。お金を持っている人を大事にし、貧しい人は、ぞんざいに(投げやりで乱暴に)扱うということを、その教会の人たちがしてしまいました。

皆さんは、今日の聖書の出来事を読んでどう思いましたか？「へえ～っ、昔の教会のクリスチャンたちにもえこひいきがあったんだ！」あるいは、「天の神さまは、私たちみんなを同じように愛してくださっているのに、どうして？」…と
思ったお友だちもいることでしょう。でも、私たちの中にも、知らず知らずのうちに、分け隔てすること、えこひいきすること、差別することがたくさんあるのではないのでしょうか？

1節に、「あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから」とあります。イエスさまがお生まれになったとき、まず貧しい身なりの羊飼いたちが、そして立派な身なりをした博士たちが、つまりこの世での立場は違う人たちが、なんの区別なく救い主イエスさまを礼拝したのでしたよね。私たちは、みんな神さまの前に同じ人間です。私たちには、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という最高の律法が与えられているのでしたよね。それなのに、お金持ちの人と貧しい人を分け隔てする、えこひいきする、差別することは、神さまの喜ぶことではありません。イエスさまを信じている人は、イエスさまからの愛をいただいているのです。だから、どんな人に対しても自分自身のように愛すること、それが、神さまが私たちに望んでおられることです。どんなお友だちにも分け隔てなく、えこひいきすることなく、差別することなく神さまからの愛を実践できるようにお祈りしましょう！
まずは、どんなお友だちにも、いつもにっこり挨拶できるといいですね。



◆お祈り

神さま、私がいつも分け隔てなく、えこひいきすることなく、差別することなくイエスさまの愛を実践できるようにしてください。
(南柏聖書教会伝道師 菊池真恵美)

3月4日 テーマ：信仰と行い

聖書箇所：ヤコブの手紙2章14～26節

◆今日のみことば

あなたの見ているとおりに、彼の信仰は彼の行いとともに働いたのであり、信仰は行いによって全うされ、
ヤコブの手紙2章22節

◆メッセージ

「あなたの信仰を、私に見せてください」と、ヤコブさんは言っています（18節）。
あなたが神さまを信じているのなら、その神さまがどんな方なのか、私にわかるようにしてください、ということなのです。

あなたの言っていることや、していることを見て、お友だちはあなたが信じている神さまを信じたいと思うのでしょうか。もしあなたが、友だちの良い所を見つけてすごいねえと驚いたり、自分によくしてくれたことに感謝したり、困っている人がいると親切にしてあげたり、また、つらいときや困ったときにも神さまが良くしてくださったことを数えて喜んでいられるなら、どうでしょう。反対に、人の良い所より欠点をさがすほうが多いなら、また、自分の思い通りにならないことを悲しんだり怒ったりすることがよくあるなら、どうでしょう。

お友だちはどちらのあなたに近づきたいと思うのでしょうか。あなたに近づきたいと思う人は、あなたが信じている神さまにも近づきたいと思うようになるかもしれませんね。そうすると、うれしいですね。

私たちはみな、良いことより悪いことを思い、考え、してしまうところがあるので、大好きなお友だちともうまくゆかなくなったり、つらい思いでいたりすることがよくあります。こんな私たちのことをかわいそうに思い、助けたいと思っておられる方がいることを、あなたは知っていますか。

神さまはそんなあなたのために、ひとり子イエスさまを十字架につけてまで、ゆるし、受け入れてくださいました。こんなに愛してくださっている神さまを喜びましょう。その喜びはお友だちにもきっと伝わることでしょ。



◆お祈り

「天のお父さま。あなたの愛がよくわかる人にしてください。イエスさまのお名前をお願いします。アーメン。」

(支援教師 高橋 伸多)

3月5日

テーマ：^{おこな}行いのない^{しんこう}信仰

聖書箇所：^{てがみ}ヤコブの手紙^{しょう}2章^{せつ}17節

◆今日のみことば

それと同じように、^{しんこう}信仰も、もし^{おこ}行いがなかったなら、それだけでは、^{しん}死んだものです。

^{てがみ}ヤコブの手紙^{しょう}2章^{せつ}17節

◆メッセージ

イエスさまは、「わたしがあなたがたを^{あい}愛したように、あなたがたも互いに^{たが}愛し^{あい}あ^あいなさい。」

(ヨハネ13章^{しょう}34節)と^い言われました。

ヤコブさんの時代の^{じだい}教会に、^{きもの}着物がなく、^{しょくもつ}食物もない^{まず}貧しい人たちが^{いっしょ}一緒に^{れいはい}礼拝していました。

そして、その^{まず}貧しい人たちは、^{しょくじ}食事の時間になると、^かそとかくれるように^か帰っていきました。

それに^き気づいた人は「今日は^{ひと}寒いから、^{きょう}家でお腹一杯^{さむ}食べて、^{いえ}暖かい^{なかい}着物を^{あたた}着てね・・・。」と^{こえ}声をかけるだけでした。



ヤコブさんは、このような^{こうけい}光景を見て^みがっかりしました。それは、イエスさまを^{しんこう}信仰していると^い言いながら、^{いっしょ}一緒に^{れいはい}礼拝を^{ささ}捧げている^{とも}友だちを^{たす}助けてあげなかったからです。

*もし、イエスさまだったら、そのような^{まず}貧しい人を見たらどう^{ひと}した^みらうか？^{かんが}考えてみましょう！

*あなたならどうするか？も^{かんが}考えてみてね！

イエスさまを^{しん}信じている人、^{ひと}救われてイエスさまに^{すく}感謝している人は、^{かんしゃ}自分も^{ひと}与えられている^あものを^わ分かち^あ合いたい、^{おも}と思うようになります。^{しんこう}信仰は^{おこな}行いとなって^{あらわ}表れます。そのように^{おも}思えない人の^{しんこう}信仰を、ヤコブさんは「^し死んでいる」と^い言ったのです。

いつもイエスさまに^{かんしゃ}感謝して、イエスさまならどうされるか、と^{いの}祈って^{こうどう}行動しましょう。イエスさまがよい^{ちえ}知恵と^{ちから}力を与えて^{あた}くださいます。

◆お祈り

「^{くちさき}口先だけではなく。イエスさまが^{あい}愛するように、みんなを^{あい}愛せますように。」

(支援教師 田村昭二)

3月6日

テーマ：苦^{にが}いことば、甘^{あま}いことば

聖書箇所：ヤコブの手紙^{てがみ しょう}3章 1～12節^{せつ}

◆今日のみことば

いずみ あま みず にが みず おな あな あ
泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょうか。

てがみ しょう せつ
ヤコブの手紙3章 11節

◆メッセージ

きょうのお話は、^{はなし}言葉^{いば}です。同じ口^{くち}から「苦^{にが}い言葉^{いば}、甘^{あま}い言葉^{いば}」が出てくるのはなぜでしょう。苦^{にが}い言葉^{いば}とは、いやだな^{おも}ーと思える言葉^{ことば}です。甘^{あま}い言葉^{いば}とは、うれしいな^{おも}ー、いいな^{おも}ーと思える言葉^{ことば}です。どちらも同じ口^{くち}から出る言葉^{ことば}です。神^{かみ}さまを賛美^{さんび}している口^{くち}で、兄^{きょうだい}弟^{とも}や友^{とも}だちに「バカ^い」と言ってしまったりしていませんか。どうして、このようなことが私^{わたし}たちに起^おこるのでしょう。どうしたら、このようなことが起^おこらないようにできるのでしょうか。

き
気^きをつけなければならないのは、思^{おも}い^{おも}です。いつも、どんなことを思^{おも}っているでしょう。思^{おも}っていることが言葉^{ことば}になりますね。あいつをやっつけてやろうと思^{おも}っていると、やっつけてしまう言葉^{ことば}が出てきます。これが思^{おも}わず出^でて来るのですからやっかいです。

思^{おも}っていることが神^{かみ}さまに喜^{よろこ}ばれているかな、行^{おこな}って
いることが神^{かみ}さまに喜^{よろこ}ばれているかな、と自分^{じぶん}自身^{じしん}の思^{おも}いと
行^{おこな}いを調^{しら}べることで、悪^{わる}い思^{おも}いが付^{つき}いたら、思^{おも}いを神^{かみ}さま
まに向けてみましょう。聖書^{せいしょ}のことばに合^あわせたり、従^{したが}った
りすることによって、神^{かみ}さまに喜^{よろこ}ばれていることに気^きが付き
ます。そして仲^{なか}間^ま（友^{とも}だち）と仲^{なか}良^{よく}くすることができるようにな
りますね。



◆お祈り

「私^{わたし}の言葉^{ことば}がいつも仲^{なか}間^ま（友^{とも}だち）を慰^{なぐさ}めたり、強^{つよ}めたりする話^{はな}しができますように。そして自分^{じぶん}も神^{かみ}さまを喜^{よろこ}
び、嬉^{うれ}しくなりますように。」

(引退教師 富澤誠治)

3月7日

テーマ：上から出る知恵

聖書箇所：ヤコブの手紙3章13～18節

◆今日のみことば

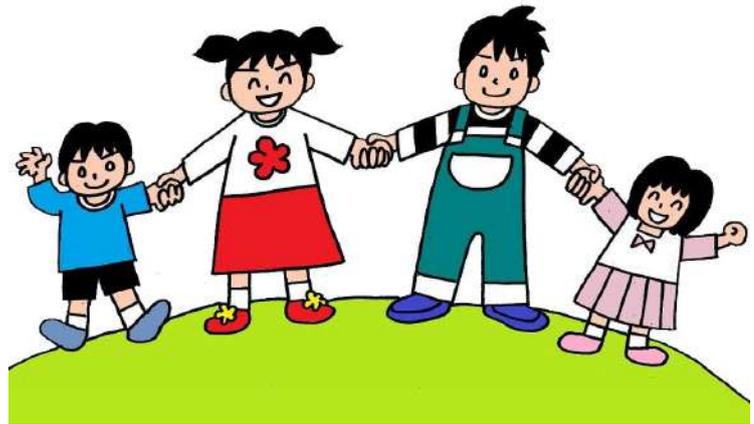
しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。ヤコブの手紙3章17節

◆メッセージ

私たちはどんなにたくさんの知識を身に付けて、色々なことを知っていたとしても、その知識を上手に生かせる知恵がないと、せっかくの知識も役には立ちません。それは、頭で分かっていることと、心で分かっていることがあって、頭で分かっていることだけを追い求めている、人は幸せに生きることができないということです。どんなにゲームが上手でも、どんなにスポーツが上手でも、どんなに音楽が上手に演奏できても、どんなに勉強ができてても。

知恵には、上からの知恵とこの世の知恵があります。この世の知恵では、自分がどれだけ上手にできるかを誇って人をけなしたり、自分より上手にできる人を憎んだりする心を持つようになります。一方、上からの知恵にあふれると人にやさしく、えこひいきをしないうで、誰とも平和にお付き合いできる「賢い人」になります。

神さまは私たちに、神さまからの知恵をいただいて「賢い人」「知恵ある人」のように生きることを望んでおられます。ほかの人よりも自分のほうがへたくそなことがあったとしても、神さまはその人が優しく平和な心を持つ人であるなら、そんな人を喜ばれるのだということに気づきましょう。



う。そして、誰とでも平和に生きていけるように、と神さまに求める人をお助けくださいます。

◆お祈り

神さま。わたし（わたしたち）もあなたが望まれているような知恵をいただいて、賢い人としてふるまうことが出来るように助けてください。イエスさまのお名前によってお祈りいたします。アーメン。

(支援教師 奈良献児)

3月8日

テーマ：世の友とならない

聖書箇所：ヤコブの手紙4章 1～10節

◆今日のみことば

貞操のない人たちが。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友となり

たいと思ったら、その人は自分を神の敵としています。 ヤコブの手紙4章 4節

◆メッセージ

「世の友とならない。」って、どういうこと？ 学校でお友達を作っはいけないということ？

そうではありません。神さまが「世」と言われるとき、それは神さまから離れて、神さまのご命令を守らないで、悪いことをしている世界のことを意味しています。そこは、悪魔が誘惑する世界でもあります。ですから、そこには争いや戦いなど悪いことが起こるのです。

では、あなたは、そのようなところに近づかなければいいと思いますか。でも、実は、世は、あなたの心の中にもあるのです。悪魔の誘惑に負けて、自分の思うようにしたいという欲望にとらわれていませんか。よくないことをしている友だちを格好いいなあと思ったり、嫌われたくないからと悪いことを一緒に行っていないですか。もしも、神さまから離れている世の友になりたい、世と一緒に歩みたいと思うならば、それは神さまを敵とすることになってしまいます。全能の神さまを敵とするなんて、恐ろしいことです。

知ってください。神さまは、あなたを、ねたむほどに愛してくださっています。ですから、世の友とならないで、神さまのよい友としていただきましょう。神さまの愛を受けて歩みたいですね。では、どうすればよいのでしょうか。

神さまに従い、悪魔に立ち向かうことです。神さまは悪魔より強いので、悪魔はあなたから逃げ去ります。神さまに近づき、神さまの教えを忠実に守ることで。そうすれば、神さまも、あなたに近づいてくださいます。神さまの御前でへりくだり、神さまを信頼することです。そうすれば、神さまが、あなたを高くしてくださいます。神さまは、あなたを愛し、あなたが幸せであることを願っておられます。



◆お祈り

「どうぞ、私が世の友とならないで、ますます、神さまに近い者としてください。」

(支援教師 中嶋基之)

3月9日

テーマ：悪口を言わない

聖書箇所：ヤコブの手紙 4章11節、12節

◆今日のみことば

兄弟たち。互に悪口を言い合ってははいけません。 ヤコブの手紙4章11節

◆メッセージ

「悪口を言ったことがありません」という人は、ほとんどないでしょう。人は、どうしても人の悪いことや欠点、気に入らないことに気付くと口に出したくなるからです。そんな時に、自分を戒める必要があります。悪口を言うのはやめよう、と。そして、相手の良い点を見るようにしたら、良い友だちとなれるのではないのでしょうか。

悪口を言うことは、さばいているのだと、ヤコブは忠告しています。さばくのは、神さまがなさることではありませんか。絶対に正しい神さまだけがさばくことができるのです。それなのに、自分の考えで、人が悪いとか欠点だと決めてしてしまうのは、自分を神とすることになってしまいます。恐ろしいことですね。わたしたちは、唯一の神さまに委ねましょう。神さまが、すべてのことをさばいてくださいます。

「互いに」ですから、他の人が悪口を言いふらしている時には、愛をもって、「やめよう」と言いましょう。そして、私たちの救い主を語ることに、心を向けたいと思います。



◆お祈り

「神さま。悪口を言うことがないように、私の心も口も守ってください。神さまにおゆだねできますように。」
(支援教師 長谷部丈衛師)

3月10日

テーマ：私の計画、神の計画

聖書箇所：ヤコブの手紙 4章13節～17節

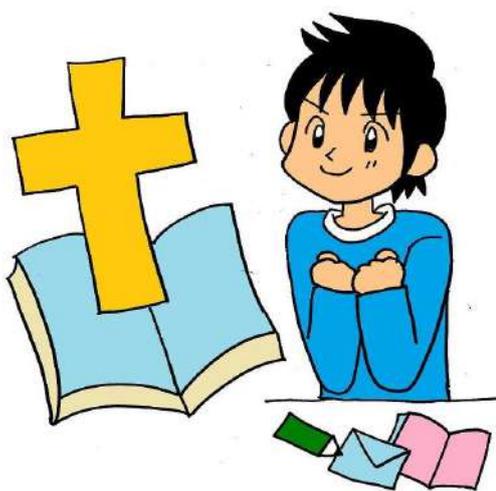
◆今日のみことば

聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう」と言う人たち。あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現われて、それから消えてしまう霧にすぎません。

ヤコブの手紙4章13, 14節

◆メッセージ

山口さんちのツトム君 このごろすこしへんよ どうしたのかな 広場で遊ぼって言っても いつも答えは同じ 「あとで。」つまらないなあ (歌「山口さんちのツトム君」) この歌は、「ボクの計画は山口さんちのツトム君と遊ぶことだ。だけど遊んでくれない。どうしたのかなあ。もしかしてボクの計画とちがう計画があるのかも。」という歌です。自分が考えていることと他の人が考えていることは、違うよね。



だとしたら、神さまの計画はどうだろう。ボクが「こうしよう。こうしたい。」と計画することと、神さまが計画することは、同じなんだろうか。神さまは、すべてのことを知っておられて、すべてのことを動かすことができる。だけどボクは、あすどんなことがボクの上で起こるかもわからない。今日生きているとしても、あすはいなくなるかもね。それなら、ボクの計画、ボクのことはどうしたらいいんだろう。そのことを神さまにお祈りしていくことだね。

それがボクに対する神さまの計画なのかもしれない。いつも、神さまに聞いて生きること。だったら、神さまの計画、ボクのための神さまの計画を教えてくださいとお祈りしてみよう。神さまはきっと、もっといい、別の計画をもっておられると信じて従うことができるから。

◆お祈り

「神さま、ボクの計画がうまくいかないのです。だから神さま、あなたの計画を教えてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン」(支援教師 深澤健一師)

3月11日

テーマ：「^{ただ}正しい^{かちかん}価値観」

聖書箇所：ヤコブの手紙^{てがみ} 5章^{しょう} 1節^{せつ}～6節^{せつ}

◆今日のみことば

聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲惨を思って泣き叫びなさい。

ヤコブの手紙 5章 1節

◆メッセージ

このみことばを読むと、聖書ではお金持ちになることが悪いことだと言っているようで、お金持ちになることはやっぱり駄目なのかな～、と
思ってしまうかもしれませんね。でも、お金持ちになることが悪いことな
のではありません。正しくお金を使えばいいのです。



昔の人々は、お金持ちは神さまから祝福された者・救われた者であると思っていました。それで、お金持ちの中のある人たちは自分が偉いから神さまから祝福された、と勘違いしてしまいました。イエスさまは、人々が救われることは人の力(能力)ではなく、イエス・キリストを信
じることによる、神さまからの恵みによるのだと教えてくださいました。

では、なぜ、この世界にはお金持ちと、貧しい人々がいるのでしょうか？神さまは、この世の人々が互いに助け合い、愛し合うことを望んでおられるからです。だから、神さまはお金持ちや力ある人は神さまからいただいたお金と力で、貧しい人々や弱い人々を助けるように望んでおられます。人々が互いに助け合い、愛し合う世界になってほしいと願われて、神さまは人々にそれぞれ違う賜物を与えてくださいました。それなのに、自分を豊かにすることにだけお金を使って



財産をためこむならば、神さまのさばきのときに、その罪を問われます。貧しい人々と弱い人々の物までも自分の物にするならば、神さまのさばきのときに、その罪を問われます。神さまは、私たちがこの世にあって神さまのみ心を知る正しい価値観を持って生きることを望んでおられます。私たちが神さまからいただいた全てのもので、神さまの愛をもって、この世の弱い人々と分かち合うことを期待しておられます。

◆お祈り

「主のみことばに従って、神さまからいただいたものを、この世の弱い人々と分かち合うことができるように導いてください。」(館山教会伝道師 李京奭)

3月12日

テーマ：主が来られるのを待つ

聖書箇所：ヤコブの手紙5章7節～11節

◆今日のみことば

あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。
ヤコブの手紙5章8節

◆メッセージ

私が、小学生の頃のこと。外遊びをして家に帰ると、お母さんが夕飯を準備していました。炊飯器からのご飯の匂いにお腹がペコペコで我慢するのが大変でした。でも、もうすぐご飯が出来る、と思うと待つのが楽しみでした。しかしある日、お兄さんがご飯を炊いている炊飯器を勝手に開けてしまいました。まだ、完全に炊けてないのに！これでは、ご飯が台無しになってしまいます。堅さも、もちもち感もちょうど良い美味しいご飯を食べるためには、あせったりあきらめたりしないで、炊飯器を開けずに待つことが大事です。私はこのようにして待つことの大切さを知りました。

イエス・キリストは復活の後、天に上げられました。しかし、「上っていかれたことと同じ有様で、またおいでになる」と教えられています。使徒1：11)しかし、それを待つ私たちは時には耐えられずにいらいらしたり、疑ったりしてしまうことがないでしょうか。イエスさまが再びこの世に来られるのは確実です。でも、それがいつになるかは、私たちにはわかりません。しかし、その時が近いと聖書は教えています。もし、ケンカしているときにイエスさまが来られたら？もし、神さまに喜ばれないことをしているときにイエスさまが来られたら？これまでの信仰の歩みは台無しです。だから、心をしっかりとイエスさまの再臨に向けましょう。

あせったり、あきらめたり、横道にそれたりしないように。

主が来られるのを待つことは楽しみです。待つ時間は愛し合う時間です。主がこの世に再び来られる確信があるからこそ、待つことが出来ます。主が来られる日を楽しみに待ちましょう！



◆お祈り

「主を待ち望む時間が楽しみになり、苦しめられることがあっても、主が来る確信をもって、希望のうちに歩めますように。」
(小倉中央教会伝道師 金永完)

3月13日

テーマ：はいをはい、いいえをいいえ

聖書箇所：ヤコブの手紙 5章12節

◆今日のみことば

「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」としなさい。ヤコブの手紙5章12節

◆メッセージ

正直な社会では、誓いは必要ありません。誓いをたてなければならないのは、自分が本当の話を話していることが信用されない場合だけです。罪ある人間の世界は、正直な社会でなくなっていました。だから、「本当のことだよ。絶対だよ。」と示すために誓いを立てるようになりました。



むかしのイスラエルでは、神さまのお名前を使って誓うと、くるしめられることからのがれることができたので、神さまのお名前を使って誓うことが多くおこなわれていました。そのまちがいを教えているのが、今日のみことばです。

「天をさしても地をさしても、そのほかの何かをさしてもです。」とは、たとい神さまのお名前をよばなくても、神さまによって造られたもの（たとえば天や木や石）をさして誓うことは、神さまのお名前によって誓うことと同じだということです。

神さまのお名前をみだりに使うことは、軽い気持ちや自分の都合で神さまを利用することになります。ですから、モーセの十戒の三番目「あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。」とされています。神さまのさばきを受けないように注意しましょう。「はい」を「はい」、「いいえ」を「いいえ」ということは、お話しするときに正直にお話しすることが大切だということです。また、じぶんの話したことに責任を取るといふ大切さもありません。だから、はい、いいえをはっきり正直に言うようにしましょう。



◆お祈り

「いつも、自分の心に正直に『はい』『いいえ』と返事をしたり、言うことが出来ま

(支援教師 町川洋三)

3月14日

テーマ：義人の祈りは大きな力

聖書箇所：ヤコブの手紙 5章 16節

◆今日のみことば

ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。

ヤコブの手紙 5章 16節

◆メッセージ

義人って誰のことだと思いますか？ 義人の意味は、「正しい人。間違いを犯さない人」のこと。とすると『私は義人です。』と言える人なんているのでしょうか？いないですね。聖書には、「義人はいない。ひとりもない。」（ローマ3章 10節）と書いてあります。すべての人が生まれながらに罪人です。

しかし、自分の罪を隠さないで、イエスさまに正直にお話しした人は、神さまの恵みによって「義と認められる」とローマ3章 24節に書いてあります。ということは、ここで言っている義人とは「自分の罪を言い表し、イエスさまを信じている人」のことです。つまり、クリスチャンのことです！ クリスチャンは、罪を告白してイエスさまに罪を赦していただき、義と認められています。だから、私たちクリスチャンの祈りには、大きな力があると聖書は言っています。そのために必要なことは、罪を認めて祈ることです。

皆さんはイエスさまに対して、自分の罪を隠していませんか？ 例えば、病気にかかっている人が病気であることを隠していたらどうでしょう？治療してもらったとしてもできず、病気がもっとひどくなります。病気にかかったのなら正直に病気を認め、お医者さんに治療してもらわなければいけません。私たちの罪をいやしてくだ



さる方に、素直に祈ることが大切なのです。そして、神さまは、一人では弱い私たちに、祈りの仲間を与えてくださっています。イエスさまを信じている人の祈りには力があります。その祈りの力は、神さまが与えてくださったものです。その神さまの力を信じ、自分だけで抱え込まず、お互いのために祈りあっていきましょう。祈りには私たちの想像する以上の力があります。神さまが大いに働いてくださいます。日々お互いのために祈りあって、祈りの力を味わっていきましょう。

◆お祈り

「天のお父さま。自分の罪に気づいたら隠さず素直に告白し合い、互いに祈り合う心をお与えください。お互い罪を赦され義と認めてもらった者同士として、裁きあうのではなく、祈りあうことができるようにしてください。」

(原市場聖書教会牧師 若村和仁)

3月15日

テーマ：回復の道

聖書箇所：ヤコブの手紙5章19節、20節

◆今日のみことば

私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出る者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということを、あなたがたは知っていないさい。

ヤコブの手紙5章20節

◆メッセージ

迷い出る者。それは神さまから離れた人のことです。

たかしくんは教会学校に行きイエスさまも信じていました。ところが、友だちと遊ぶのが楽しくなりだんだん教会に行かなくなりました。そして、友だちと隠れてお酒を飲んだり、人をおどしたり、悪いことをするようになっていきました。それを知ったお母さんはとても



悲しく、たかしくんに「神さまのもとに戻っておいで」と何度も言いました。神さまに「たかしくんを救ってください」と毎日お祈りしました。でも、たかしくんはなかなか戻って来ません。お母さんはあきらめたでしょうか。いいえ、それでも神さまを信じて祈り続けました。神さまはその祈りを知ってくださ

さいました。ある時のこと、たかしくんは悲しい出来事に会いました。そして、やっと自分が間違った道を歩んでいたことに気がつきました。「神さま、ごめんなさい。これからは神さまにお従います。」と涙を流してお祈りしました。たかしくんは、教会に戻り、神さまの喜ばれる正しい道を歩むようになりました。



あなたのまわりに、教会から離れてしまった人は、いませんか。

その人たちが神さまのもとに戻って来るようにお祈りしましょう。あきらめずに、声をかけて、教会に誘いましょう。

◆お祈り

「神さま、教会から離れたお友だちを連れ戻すために私をお用いください。」

(支援教師 渡邊賢治師)

3月16日

テーマ：朽ちない種から生まれた私たち

聖書箇所：ペテロの手紙第一 1章23節

◆今日のみことば

あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わる事のない、神のみことばによるのです。

ペテロの手紙第一 1章23節

◆メッセージ

みなさんは、毎日元気にすごしていますか？みんなでたのしくあそべる日もあるけれど、友だちとけんかしたり、なかまはずれにされたり、学校の先生にしかられたり、そんな日もありますね。神さまは、私たちが今日も元気にすごせるように、みことばをくださいます。

神さまのみことば（聖書）には、びっくりするような力があることを、みなさんはしっていますか？それは、人があたらしく生まれる力です。あたらしく生まれるって、ふしぎですね。みなさんは、お母さんのおなかの中から生まれてきました。お父さんとお母さんがくれた大切ないのちです。けれども、そのいのちは、やがては死んでなくなってしまう。かなしいけど、人間はみんな同じです。けれども神さまは、そんな私たちに、けっして死ぬ事のない、あたらしいいのちを用意してくださいました。聖書のみことばを読んで、イエスさまを信じる人たちは、あたらしく生まれることができます。そして、神さまがくださる、あたらしいいのちをもちます。

神さまは、私たちが、あたらしいいのちをもって、神さまのことがわかる人になってほしいとねがっておられます。目には見えないけれど、神さまが本当に生きていらっしゃること、私をととても愛していただくこと、つらいことや、くるしいことがあっても、生きていける力をくださることをしてほしいのです。そして、そういう人は、いつの日か、イエスさまがまわってくださる、すばらしい天国へ入れていただくことができるのです。そんな、すてきなおくりものがあることを、聖書のみことばはおしえてくださるのです。

◆お祈り

「神さま、みことばをくださって、ありがとうございます。私たちを、あたらしく生まれさせてくださり感謝します。」

(支援教師 箕輪成美)



3月17日

テーマ：純粋なみことばの乳

聖書箇所：ペテロの手紙第一 2章2節

◆今日のみことば

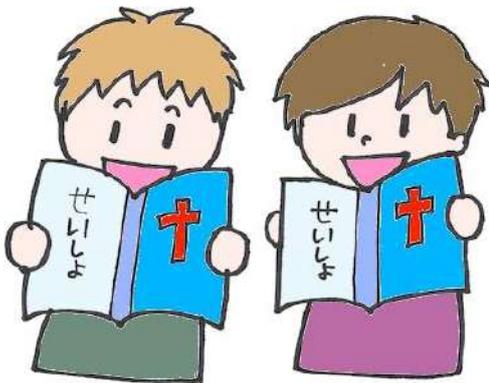
生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによ
って成長し、救いを得るためです。 ペテロの手紙第一 2章2節

◆メッセージ

みなさんは、ペットをかったことがありますか。私は、犬をもらって育てたこ
とがあります。その犬が家にきたときは、とても小さなあかちゃんでした。ほに
ゆうビンで犬用のミルクをつくりました。トラと名づけられたその犬は、ミルク
をゴクゴクのみました。他のものが目に入らないくらいの勢いで、ほにゆうビン
をくわえて放しませんでした。取り上げようとすれば、「もっともっとほしい！」
とおねだり。とにかく、いつもいつも、ひたすらミルクをゴクゴク飲み続けました。そして、とて
も大きな犬になりました。トラは、「どうです。ぼく、こんなに大きくなったよ」といったげでし
た。



神さまは、私たちがイエスさまを信じて、神さまの子になるようにねがっておられます。そして、
いつまでもあかちゃんではなく、大きくなるようにねがってお
られます。信じたらおしまいではなく、信じることは始まりです。
あかちゃんは、ミルクを飲んで成長しますね。ひたすら、ゴク
ゴクと。聖書を読むことは、私たちの信じる心を強くし、大き
くするミルクを飲むようなものです。トラがあかちゃんだった
時のように、みことばを放さないで、「もっともっとほしい！」
と聖書を読みましょう。そして、大きくなりましょうね。



◆お祈り

「神さま、聖書を読んでもっと神さまのことを知り、大きくなることができますように。」

(支援教師 吉永功一)

3月18日

テーマ：神の所有とされた民

聖書箇所：ペテロの手紙第一 2章9節

◆今日のみことば

しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

ペテロの手紙第一 2章9節

◆メッセージ

神さまの言葉である聖書は、私たちのことを「神の所有の民」といいます。それは、私たちが神さまの国の一員であり、私たちは神さまのものだということです。天地を造られた神さまはご自分のものである国民をととても大切に思っています。決して私たちが捨てることはありません。どんな時でも私たちと一緒にいてくださいます。そしてたとえ私たちが死んでも、ご自分の天国に私たちを迎えてくださいます。どのようにして私たちは「神の所有の民」となることができたのでしょうか。罪を持ったままではだれも天国に行くことはできません。心に罪を持ったままではだれも「神の所有の民」となることはできません。しかし、罪の中にあつた私たちを、神さまが、代価を支払って買い戻してくださり、ご自分のものとしてくださいました。何の罪もない神の子イエスさまが私たちの罪の身代わりとなって、十字架にかかり、私たちのぜんぶの罪の罰をひき受けてくださったのです。ですから私たちの罪はぜんぶゆるされたのです。イエスさまの十字架の血によって私たちは洗われて、心が雪のように白くされて神さまの国の民とされたのです。



私たちは毎日何のために生きていけばいいのでしょうか。それはこんなにも私たちのことを大切に思い、愛してくださった神さまのすばらしさを周りの人々にあらわしていくためです。周りの人たちもイエスさまを信じて一緒に天国に行けるためです。私たちの優しい心や、親切な言葉や行動を見て周りの人々は私たちの信じている神さまのことを知ることができるのです。それはなんと素晴らしいことでしょう。

◆お祈り

「神さま、どうぞ私の心の思いと言葉と行動が神さまのすばらしさをあらわすものとならせてください。」

(支援教師 森吉慶)

3月19日

テーマ：羊のように

聖書箇所：ペテロの手紙第一 2章25節

◆今日のみことば

あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者で
あり監督者である方のもとに帰ったのです。 ペテロの手紙第一 2章25節

◆メッセージ

牧者（羊飼）のいない羊は生きていけません。監督者
がいないとすぐ迷子になり、食べ物にも困ります。狼など
の野獣の餌食にされてしまいます。「あなたがたは羊のよ
うにさ迷っていた」と書いてあります。神さまから離れてい
る人は、迷子の羊のようです。先のことが見えず、不安で
す。悪魔がねらっています。罪の滅びが待っています。



でもそんな私たちを救うためにイエスさまは「十字架の上で、私たちの罪をその身に負
われました。それは、私たちが罪を離れ義のために生きるためです。キリストの打ち傷の
ゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」(24節)。ここに書いてある「義のために生
きる」とは、イエスさまの十字架の模範にならって生きることです。イエスさまは「の
のしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方
にお任せになりました。」(23節)。この「正しくさばかれる方」とは天の神さまです。2
0節21節には「善を行っていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは神に喜
ばれることです。あなたがたが召されたのは、実にそのためです。」と書いてあります。私



たちはたましいの牧者であり監督者であるイエスさま
のもとに帰ったのですから、もう迷子の羊ではありません
。安心です。イエスさまが悪いものから守ってください
ます。イエスさまについていき、イエスさまのように歩む
ことができるのです。イエスさまのようになれるなんて、
嬉しいですね。

◆お祈り

「私たちの牧者であるイエスさま。罪と死に向かってさまよう羊のような私たちを、正しい
道に歩むようにしてくださり、感謝します。」 (支援教師 渡辺真理)

3月20日

テーマ：「いつでも弁明できる準備を」

聖書箇所：ペテロの手紙第一 3章15節

◆今日のみことば

むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。
ペテロの手紙第一 3章15節

◆メッセージ



「イエスさまとはどんな人ですか」と、友たちからたずねられることがあるかもしれせん。そのためにも、日頃から聖書を学んでおく必要があります。しかし、それで十分といえるでしょうか。わたしたちのなかには、弁明（聖書や神さまのことを説明すること）したり、証しすることを、苦手としている人がいます。わたしもその一人でした。でも、安心してください。いくら、言葉上手にイエスさまのことを話すことができたとしても、それでイエスさまのことが相手に伝わるとはいえないからです。

それは、心の中で、キリストを主とあがめながら、証しをすることを心がけるならば、言葉上手に説明できなくとも、イエス・キリストがどういうお方であるかが、相手に伝わるからです。

つまり、キリストを信じているその人の人柄（どんな人か、どんな生き方をしているか）が問題となります。イエス・キリストを信じている人とは、こうした人物であるのかということが相手に、よく伝わるが一番大切なこととなります。

キリストをあかしたり弁明したりしているつもりが、ただ、自分を弁護（自分を守ること）したり、弁明することに熱心であることがあります。そうならないように、お互い、注意したいものです。

言うことを準備するだけでなく、「心の中でキリストを主とあがめながら証しする」。これが、大切なことです。



◆お祈り

「イエスさまを、心から主とあがめます。私を福音を伝える者として用いてください。」

(支援教師 結城晋次)

3月21日

テーマ：「思い煩いを神にゆだねる」

聖書箇所：ペテロの手紙第一 5章7節

◆今日のみことば

あなたが^{おも}の^{わずら}思い煩いをいっさい^{かみ}神にゆだねなさい。神があなたが^{かみ}たの^{しんぱい}ことを心配してくだ
さるからです。 ペテロの手紙第一 5章7節

◆メッセージ

この手紙を受け取った人たちは、小アジアの各地に散らされて滞在しているクリスチャンたち
です。この手紙を読むと、彼らが嫌がらせを受けたり、迫害されていたりしたことがわかります。

ここでペテロさんは、明日はどうなるのだろうと考えるとつらくなるようなクリスチャンたちに
「へりくだること」を教えています。へりくだるとは、どのようなことなのでしょう？それは、
神さまが私の^{かみ}全て^{すべ}を知^しっていてくださる^{かた}方であり、私^{しんぱい}たちを心配^みし、見捨^すてない^{かた}方であるというこ
とを^{しん}信^じることなのです。私^{おも}たちは、つい「自分でできる！」と思^{おも}ってしまう^かときがあります。し
かし、神^{かみ}さまは^{たか}そのような^{おも}高^よぶ^こった^{かみ}思^かい^{たか}を喜^{たか}ばれ^てませ^{きたい}ん。神^{かみ}さまは^{たか}高^{たか}ぶ^てる^{きたい}もの^てに敵^{たか}対^{きたい}し、へりく
だる^{めぐ}もの^あに恵^あみ^{かた}をお^か与^かえ^かになる^か方^かです。「自分でできる」と思^かう^かこと^かの反^か対^かに「自分^かには^かでき^かない」
と思^かっ^かて^かし^かま^かうと、こ^かわ^かくて身^か動^かき^かでき^かない^かよ^かうな思^かい^かにな^かり^かま^かす。自^か分^かでは^かなく^かて、神^{かみ}さまが^かし
て^かくださ^かる、こ^かれ^かがへ^かり^かくだ^かった^か心^かです。聖^{せい}書^{しょ}はこ^いう^い言^いいま^いす。「あ^{かみ}なた^かが^かた^かは、神^{かみ}の^か力^{ちから}強^{つよ}い^み御^み手^て
の^{した}下^かにへ^かり^かくだ^かり^かな^かさい。神^{かみ}が、ち^よう^よど良^よい^か時^かに、あ^{たか}なた^かが^かた^かを^か高^{たか}く^かし^かて^かくださ^かる^かた^かめ^かです。」

そして「あ^{かみ}なた^かが^かた^かの思^{おも}い^か煩^{わずら}い^かを、い^かっ^かさ^かい^か神^{かみ}に^かゆ^かだ^かね^かな^かさ^か
い。神^{かみ}が^かあ^かなた^かが^かた^かのこ^{しんぱい}と^かを^か心^か配^{しんぱい}し^かて^かくださ^かる^かた^かめ^かです。」と書^か
か^かれて^かいま^かす。ゆ^かだ^かね^かるとは、持^もっ^かて^かいま^かる^かもの^なを「投^なげ^なか^なける」
とい^いう^い意^い味^みが^かあ^かり^かま^かす。問^{もん}題^{だい}や悩^{なや}み^{なや}を自^じ分^{ぶん}の^て手^ての中^{なか}に^も持^もち^もつづ^{つづ}
け^かる^かの^かた^かめ^かなく、神^{かみ}さまに^か渡^{わた}し^か切^きり^いな^いさ^いと^いう^いの^いです。

へ^かり^かくだ^かつ^かて、私^{すべ}たち^しの^か全^{すべ}て^しを^か知^しっ^かて^かくださ^かる^か神^{かみ}さま^{しん}を^か信^{しん}
じ、^{すべ}全^{すべ}て^いを^いお^いゆ^いだ^いね^いす^いる^い祈^{いの}り^きを^かし^かて^かみ^かま^かし^かょう。必^{かな}ず^か神^{かみ}さま^かは、私^か
たち^かの^い祈^{いの}り^きを^か聞^きい^かて^かくださ^かい^かま^かす。



◆お祈り

「天^{てん}のお^{とう}父^ふ様^{さま}。私^{すべ}の^し全^{すべ}て^しを^か知^しっ^かて^かくださ^かり、心^{しん}配^{ぱい}し^かて^かくださ^かる^か神^{かみ}さま^かが、い^いつ^いも^い一^{いっ}緒^{しょ}に^い
て^いくださ^かる^かこ^かと^かを^か感^{かん}謝^{しゃ}い^いた^いし^いま^いす。ど^いう^いか、私^いの^い祈^{いの}り^きを^か聞^きい^かて^かくださ^かい。」

(支援教師 山本真理子)

3月22日

テーマ：「主の日は盗人のように来る」

聖書箇所：ペテロの手紙第二 3章 10節

◆今日のみことば

しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。ペテロの手紙第二 3章 10節

◆メッセージ

電話がなりました。あら、こんなじかんにだれかしら？ママが電話に
でると、電話のむこうの人がいました。「もしもし、明日、あなたのお
うちにどろぼうにはいますね。そのとき、あなたのおうちのおたから
をぬすみませう。だから、おたからを用意しておいてください。」そして電話
はきれました。ママは目をまんまるくしておどろきました。「えーっ！なん
ですってー！たいへんだわ！」こんなことあるのでしょうか？予告状を
だしてからどろぼうにはいるのは、名探偵コナンに出てくる怪盗キッド
(知ってる?)ですが、こんなどろぼう、ふつうはいませんね。



どろぼうはだれも知らないときに来て、そっとおたからをちょうだいしていきます。「そっと」
だから、どろぼうなんです。

今日の聖書はイエスさまはどろぼうのようにくる、といっています。えーっ、イエスさまってど
ろぼうだったの!?もちろんちがいます。まるで、どろぼうみたいにそっと来られる、というい
みです。え、イエスさまはいつくるの?予告状をだしてくださらないので、わからないのです。そ
と来られるのです。



「イエスさまはまたくるの?ということはイエスさまに会えるの?」と
思いますね。そうなんです。今は目に見えなくて、でも私たちが愛してくだ
さっているイエスさまに、いつかはっきりおかおを見てお会いできるとき
がかならず来ます。イエスさまってどんなおかおかなあ?おとうさんより
かっこいいかなあ?ワクワクしますね。そのイエスさまにお会いできる日
がそっとちかづいてきてるよ、とみことばはっています。

そうだとしたら、のんびりしてられませんね。イエスさまに今日も明日もしたがってあゆみた
いですね。だって、イエスさまは明日こられるかもしれませんから。

◆お祈り

「イエスさまにお会いできるのをたのしみにまちながら、今日も(明日も)イエスさまにした
がえるようにたすけてください。」

(国立キリスト教会牧師 本澤敬子)

3月23日

テーマ：「罪を赦し、悪からきよめてくださる主」

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 1章9節

◆今日のみことば

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。ヨハネの手紙第一 1章9節

◆メッセージ

悪いことをしたとき、あなたはどうしますか。例えば、友だちの大事な物を壊してしまったとき、友だちにしっかりと謝ることができますか。他の人のせいにしてたり、何も言わないで知らないふりをしたり、自分は悪くないと開き直ったりしたことがありますか。すぐに謝ることができないとき、あなたの心はどのような気持ちになりますか。もし、このことがバレて、怒られたらどうしようかと不安になることはありませんか。とても心が苦しくなって、しっかりと早くあやまりたい、そして早くゆるしてもらいたいと考えることもあるでしょう。



もし勇気を出して、正直に謝ったとき、友だちがゆるしてくれたらうれしいですね。そして、その友だちとまた楽しく、一緒に遊べます。もしかしたら、あなたが正直にあやまったことを友だちが喜んで、今までよりもっと仲良くなることもあるかもしれませんね。

私たちが神さまにあやまるとき、神さまは喜んでゆるしてください。神さまはいつも私たちを大切に、私たちに優しくしてくれます。神さまは、すべてを知っておられますから、私の罪を隠し通すことはできません。ごまかすこともできません。だから、悪いことをしてしまったと思ったら、すぐに神さまに「ごめんなさい」とお祈りをしましょう。

私たちが、神さまに言い表す自分の罪とは何でしょうか。考えてみましょう。神さまのことを忘れて、神さまよりも他のことを大事にしてしまったり、自分のことばかり考えて、兄弟や家族、友だちを大切にできなかったりしたことはありませんか。

私のことを大切に、優しくしてくださっている神さまにありがとうという気持ちをいつも忘れずにいたいですね。同じように神さまに大切にされている兄弟や家族、友だちを傷つけないようにしたいですね。



私たちが神さまに自分の罪を正直にお祈りするとき、神さまはその罪をゆるしてください。そして、私たちは神さまともっと仲良くなっていくことでしょ。

◆お祈り

「いつも優しい神さま。私たちの正直な祈りを聞いてください。私たちの罪をおゆるしてください。私たちの悪い考えを取り除いてください。」 (土浦めぐみ教会伝道師 石田和也)

3月24日

テーマ：「神から生まれた者は」

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 3章 9節

◆今日のみことば

だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。

ヨハネの手紙第一 3章 9節

◆メッセージ

今日の箇所には、「だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。」と書かれています。でも私たちは神さまを悲しませる罪を犯すことがあります。それでは、私たちは神さまの子ではないのでしょうか。いえいえ、ここで言っているのは、神から生まれた者は全く罪を犯さないということではなく、「罪を犯し続けません。」という意味です。

きっと皆さんも、人の悪口をいったり、いじわるしたりした後に、神さまを悲しませることをしてしまったと反省することがあるでしょう。それは、「神の種」が私たちの内にはあって、罪や間違いを教えてくれているからです。

ですから私たちは罪を犯したことに気づいたのであれば、イエスさまの前に素直に「赦してください」と悔い改めましょう。その時、神さまは私たちの罪をイエスさまにあって赦してくださいます。神さまの子どもである私たちは、みことばによって、聖霊によって、神さまに喜ばれること・神さまを悲しませることを知ることができます。神さまに従う力も与えられています。このように、神さまに導かれて、歩むことができるのです。

神さまに愛される子どもとして今日も歩んでいきましょう。



◆お祈り

「神さま、罪が多い世の中で罪を犯し続けることがなく、神さまに愛される子どもとして歩めるようにしてください。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

3月25日

テーマ：「神の愛が私たちに示された」

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 4章9節

◆今日のみことば

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。ヨハネの手紙第一 4章9節

◆メッセージ

好きな人がいると、いつも時間を一緒に過ごしたい、一緒に遊びたい、一緒に食事したいと思うようになります。愛する家族と一緒に生活をして、一緒にご飯が食べられることは本当に幸せなことです。このように神さまも、私たちをととても愛してくださっているのです、私たちと一緒に過ごしたいと願っておられます。しかし悲しいことに、人々は罪を持っているので神に近づくことができないし、神さまに近づこうともしないのです。神さまは、罪を忌み嫌われる方です。残念ながら、私たちの心の中にはあまりにもたくさんの罪があります。そして、罪のある私たちは、神さまのもとに行くことができず、滅びるしかありません。罪を持っている人が自分で神さまのもとへ行くことができないとすると、唯一の方法は神さまの方から人の方に来てくださることしかないですね。ということで、神さまのおひとり子であるイエスさまが人となって、私たちのところに来てくださったわけです。イエスさまは、人として来られて私たちの言葉を使い、私たちと同じものを食べました。悲しい時は泣いたり、嬉しい時は喜んだりしました。ですから、イエスさまは完全な神さまでありながら完全な人でもありました。神さまは、ひとり子のイエスさまを私たちの罪の身代わりにして、私たちを滅びから救ってくださいました。イエスさまの十字架によって私たちの罪をなくしてくださったので、私たちは神さまのもとに行くことができ、神さまと一緒に過ごすことができるようになりました。永遠に一緒に。それは、神さまが、私たちと一緒に過ごしたいと願われたからです。



私たちは、これほど神さまに愛されています！

イエス・キリストが私たちのところに来てくださったこと、それこそが神さまの愛が私たちに示されているのです。

◆お祈り

「神さま、イエスさまを私たちに送ってくださって、神さまが私たちを愛してくださっていることがわかりました。本当にありがとうございます。」

(枝川愛の教会伝道師 趙鏞吉)

3月26日

テーマ：「愛し合うこと」

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 4章7節～21節

◆今日のみことば

愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。ヨハネの手紙第一 4章11節

◆メッセージ

イエスさまは私たちに、神さまと人を愛しなさい、と言いました。それはできればやってください、ということではなく、イエスさまからの「命令」(4章21節)である、と聖書に書かれています。

「愛する」とは、「大切にする」という意味です。あなたは人を大切にしていますか？私たちは自分に優しくしてくれる人や、いっしょにいて楽しい人のことは、大切に思うでしょう。しかし・・・



自分にいやなことをする人のことは、なかなか大切に思うことができません。「あんなやつ、いなければいいのに・・・」口には出さなかったとしても、私たちの心の中には、そういう思いが自然に起ってしまうことがあります。

聖書には、人間は「愛」を知らなかった、と書かれています。しかしイエスさまによって、私たちは本当の「愛」を知ることができました(4章9節)。イエスさまは、神さまと人を愛し

つづけました。人から見捨てられていたような、病気のひと、貧しいひと、ともだちがいないひとのところに行き、ともだちになりました。イエスさまはどんな人も大切にしました。イエスさまは愛のあふれる方でした。しかし、人々の悪い思いによって、十字架にかけられてしまいました。

イエスさまは十字架の上で、息をひきとる前に、自分を殺そうとしている人たちのために、お祈りをしました。「神さま、彼らをゆるしてください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」イエスさまは、自分を殺そうとしている人たちでさえも愛し、彼らの罪のゆるしのために祈りました。



私たちもイエスさまのように、人を愛することができるのでしょうか？そんなことできない、と思う人もいるかもしれません。しかし、神さまは愛であると信じる人の心の中には神さまがおられます(4章16節)、と書かれています。神さまの力によって、私たちが愛することができるようになる・・・聖書はそのように教えています。

◆お祈り

「私たちもイエスさまのように、人を愛することができますように。」

(久留米聖書教会伝道師 下田陽介)

3月27日

テーマ：「主のあわれみを待ち望む」

聖書箇所：ユダの手紙20節～21節

◆今日のみことば

しかし、愛する人々よ。あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、聖霊によって祈り、神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに至らせる、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。ユダの手紙20、21節

◆メッセージ

バスや電車などの乗り物を待ったことがありますか。まず、停留所や駅で待たなければなりません。また、行先や時刻を知って待つことでしょう。バスや電車の会社が決めた時刻表を信じて待ち、さらには運転手さんを信頼しなければバスや電車に乗ることはできません。「もし、バスや電車が時間通りに来なかったり、来る途中で事故があったり、行先がとつぜん変更になったりすることがあったら、と心配し始めたら、安心して待つことができません。しかし、その日の行先を楽しみにして待つと、待つことも楽しみにになりますね。



主を待ち望むとはどうすることでしょう。それは主に期待することです。主がどんな方であるかを知り、信頼することで、私たちは期待して待ち望むことができます。主は、あわれみ深いお方です。この主のあわれみを待つことができます。このように主を信頼することができなければ、主を待ち望むことは難しくなります。だから、信仰が重要です。イエスさまは私たちの罪をゆるし、私たちを天国に入れてくださるために、十字架にかかれた方です。そうして私たちへの神さまのあわれみを示されました。神さまの約束を守り、果たされた方です。このイエスさまの姿を通して、私たちは主を信頼することができます。

それでも、心配になったり、くじけそうになったりしたら、どうしたらよいでしょうか。聖霊なる神さまが、祈りを励ましてくださいます。そして、神さまの愛にとどまり続けることです。イエスさまが私の身代わりに死んでくださった愛を思い起こすことです。主を待ち望む間にはいろいろなことがあります。しかし、いつも神さまの愛に私たちがとどまることで、主を待ち望むことができます。祈りのうちに、神さまの愛を思いめぐらし、祈り、礼拝をささげながら主を待ち望みましょう。

◆お祈り

「主がどんなお方であるかを知ることができますように。主を信頼します。神さまの愛の中にとどまり、主を待ち望むことができますように」

(愛のキリスト教会伝道師 小野寛)

3月28日

テーマ：「初めの愛から」

聖書箇所：黙示録2章4節

◆今日のみことば

しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

黙示録2章4節

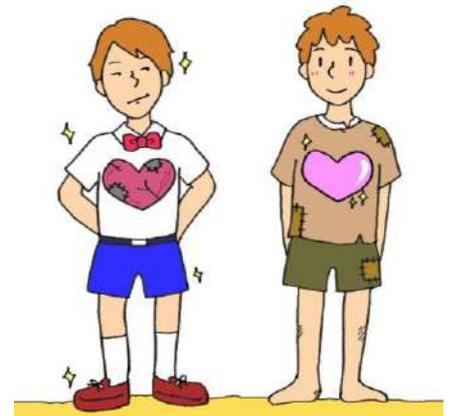
◆メッセージ

イエスさまは私たちに、家族やともだちを大切にできるように教えられました。聖書に出てくるエペソの教会は、イエスさまが教えたとおりに神さまと人を愛する教会でした。

ところが、教会にニセ教師たちが現れたことをきっかけに、優しくったはずのエペソの人たちはずいぶんと変わってしまいました。ニセ教師たちのウソを見破るのは素晴らしいことですが、いつもお互いをきびしい目で見えるようになり、ギスギスした雰囲気。だれが正しいか間違っているか、と。そしてついに、神の家族であるはずのクリスチャン同士がよくケンカをするようになってしまいました。相手の欠点ばかりが目について、仲間の弱さを受け入れる心や過ちをゆるす心をなくしてしまったのです。

そこでイエスさまは、大切なことを思い出させるためにこう言われました。「あなたは初めの愛から離れてしまった。それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをなさい。」(黙示録2章4-5節)

何をするにも私たちが忘れてはいけないもの、それは愛です。まわりにいる人たちのことを大切に、愛することです。しかし、そうとわかっている、愛から離れてしまうことがあります。エペソ教会の人たちのように熱心に奉仕をしても、愛から離れてしまうことがあるんですね。



そんなときはイエスさまが教えられたように、まずは立ち止まって自分の言葉、行動を振り返ってみましょう。そして、もし過ちに気づいたなら「神さま、ごめんなさい」と素直に悔い改めましょう。悔い改めは気持ちや言葉だけではなく行いによって表わされます。そのこともしっかり覚えておきたいと思います。イエスさまが示してくださった愛の道へと私たちも進ませていただきます。

◆お祈り

「神さま。私は、家族やともだち、教会の人たちを愛する歩みから離れていないでしょうか。どうぞ、私の心をしらべてください。」

(白山めぐみキリスト教会伝道師 廣岡拓朗)

3月29日

テーマ：「戸の外に立ってたたかれる主」

聖書箇所：黙示録3章20節

◆今日のみことば

見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

黙示録3章20節

◆メッセージ

ラオデキヤは、商売の中心地として栄えていた都市で、そこに暮らす人たちは、何不自由のない、豊かな生活をしていました。しかし、時に豊かさは、人に「神さまなんていなくても大丈夫だ」と思わせることがあります。ラオデキヤの教会のクリスチャンたちもそうだったようです。彼らは、イエスさまを信じると言いながら、実際にはイエスさまのみことばより自分の考えや思いを先にした生活をしている、神さまのことばに従って生きていない、そんな中途半端な信仰の歩みをしていました。豊かさで心の満たされていた彼らは、心の中からイエスさまを追い出してしまうたのです。

私たちも同じようなところはないでしょうか。毎週教会に行き、お祈りして、みことばを聞いていても、聞いたみことばの通りに歩んでいないことはないでしょうか。心のどこかで、「ここは自分でできる。イエスさまがいなくたって大丈夫」と思っていないでしょうか。そうやって、自分の心からイエスさまを追い出してしまうのではないのでしょうか。



でも、そんな私たちであっても、イエスさまは愛してくださっています。愛しているからこそ、時にイエスさまは、私たちをしかったり、懲らしめたりします。そうやって、私たちが閉じてしまっている心の扉を叩いて、私たちがイエスさまから離れてしまっていることに気づかせようとしておられるのです。私たちは、辛いとき、苦しいときにこそ、イエスさまが扉を叩いておられることを思い出して、イエスさまを心にお迎えしましょう。そして、イエスさまと一緒に歩いていきましょう。



◆お祈り

「私がイエスさまのことを忘れてしまっても、いつもイエスさまは私の心の扉を叩いてくださっていますから、ありがとうございます。イエスさまを心にお迎えして、イエスさまと歩んでいくことができますように。」

(豊橋福音聖書教会伝道師 井上慎治)

3月30日

テーマ：「最後の審判」

聖書箇所：黙示録 20 章 11 節～21 章 7 節

◆今日のみことば

彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。黙示録 21 章 4 節

◆メッセージ

日本で一番長く生きた人は何歳まで生きたと思いますか。なんと 117 歳です。すごいですね。でもどんなに長生きしても、人間はいつか亡くなります。それでは亡くなったあとに、私たちはどこに行くのでしょうか？聖書の最後にあるヨハネの黙示録という本に、そのことがはっきりと書いてあります。私たちは死んだあとに、誰もが神さまの前に立つと書いてあります。そして神さまは、神さまの前に立っている一人一人を、生きている間に何をしたのか、良いことをしてきたか、悪いことをしてきたのか裁かれます。まことの神さまを信じて、イエスさまを救い主として心に受け入れている人は、いのちの書という書物に名前が書かれていて天国に行くことができます。でも神さまを信じることをせずに、悪いことをしてきた人は、恐ろしいことに永遠に苦しまなければいけない火の池に投げ込まれます。だから生きている間に神さまを信じること、そして神さまがみんなにしてほしいと思っている良いことをすることはとても大切なことです。



それでは、天国はどのようなところでしょうか？今、私たちが生きているこの世界は過ぎ去って、全く新しい世界になると書いてあります。神さまが私たちと一緒に住んでくださり、神さまは私たちと一緒にいてくださいます。たとえ天国に入るまでの人生でどんなに辛い、苦しいことがあっても、神さまは「もう泣かなくていいよ」と私たちの涙をふいて慰めてくださいます。なぜなら、天国では死ぬことがなく、悲しいことや苦しいことがないとても素晴らしい所だからです。

イエスさまを救い主として心に受け入れて、天国を目指して歩みましょう。

◆お祈り

「神さま、素晴らしい天国に行ける約束を感謝します。神さまのことを信じて、神さまに喜ばれる良いことを行うことができますように。」

(茨木聖書教会伝道師 笠川路人)

3月31日

テーマ：「アルファであり、オメガである主^{しゅ}」

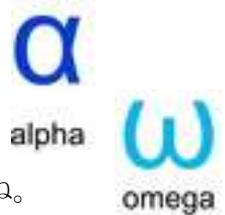
聖書箇所：黙示録^{もくしろく} 22章^{しょう} 13節^{せつ}

◆今日のみことば

わたしはアルファであり、オメガである。最初^{さいしよ}であり、最後^{さいご}である。初め^{はじ}であり、
お^お 終わり^{わり}である。 黙示録^{もくしろく} 22章^{しょう} 13節^{せつ}

◆メッセージ

これは、聖書^{せいしょ}の一番^{いちばん}最後^{さいご}の本^{ほん}の中で、イエスさまが言^いっておられる言葉^{ことば}です。
アルファ^{せいしょ}は聖書^{せいしょ}が書^かかれているギリシャ語^ごアルファベット^{さいしょ}の最初^{さいしょ}の文字^{もじ}、オメガ^{さいご}は最後^{さいご}の文字^{もじ}ですから、「最初^{さいしょ}で最後^{さいご}、初め^{はじ}で終わり^{おわり}」と続^{つづ}けて言^いわれていますね。



この言葉^{ことば}が書^かかれた時^{とき}は、イエスさまを信^{しん}じているというだけで、もし捕^{つか}まったら殺^{ころ}されるかもしれないような怖^{こわ}い時代^{じだい}でした。イエスさまを信^{しん}じている人^{ひと}は世^よの中でとても弱^なくて、希望^{きぼう}も持^もてない時代^{じだい}でした。そんな中^{なか}でイエスさまが言^いってくださったのがこの言葉^{ことば}なのです。

もちろん、神^{かみ}さまは永遠^{えいえん}に生きておられる方^{かた}ですから、神^{かみ}さまご自身^{じしん}に初め^{はじ}や終わり^{おわり}があるわけではありませぬ。これは、「私たち人間^{にんげん}にとって、神^{かみ}さまが初め^{はじ}であり終わり^{おわり}なんだよ」ということ^{こと}です。では、「あなたにとって、わたし^{さいしょ}が最初^{さいご}で最後^{さいご}だよ」というイエスさまの言葉^{ことば}は、どうい^いう意味^{いみ}なのでしょう。

まず、「わたしはどんな時^{とき}でも、いつでもどこでもあなたと一緒^{いっしょ}だよ」ということ^{こと}です。大変^{たいへん}な戦争^{せんそう}の中^{なか}でも、周り^{まわ}りがみんな敵^{てき}に見えるような時^{とき}でも、私たち^{ぼんどう}が本当^{ほんとう}に弱^{よわ}って希望^{きぼう}がないような時^{とき}でも、「わたしは一緒^{いっしょ}だよ」とイエスさまは言^いってくださるのです。

それから、「あなたはわたし^{いのち}が命^{あたま}を与^{たま}えて、わたしのために生^いきるように造^{つく}ったんだよ」ということ^{こと}です。神^{かみ}さま抜きに、私^{じぶん}たちは自分^いの生^いきる意味^{いみ}を見^みつけられないんです。

また、「あなたはたとえ死^しんでも、わたし^くのところに来^くるんだよ」ということ^{こと}です。私たち^{つく}を造^{つく}ってくださった神^{かみ}さまは、私^{さいご}たちを最後^{かんせい}に完成^{みちび}まで導^さいてくださいます。「最後^{さいご}はぜんぶ神^{かみ}さまにお任^{まか}せできる」という安^{あん}心^{しん}を大^{たい}切^{せつ}にしましよ。

◆お祈り

「神^{かみ}さま。今日^{きょう}も私^{わが}と私^{わが}の生活^{くわつ}の全^まてをあなたにお任^{まか}せします。アーメン。」

(教団支援教師 白石剛史)

